

「支ええる」ではなく「支え合う」
 最近高齢者が増えて、介護をする人が
 多くなっている。障害者も同じで、助けがな
 いと生活に不便だ。このように「高齢者や障
 害者を支えていくこと」が大事だと言われ
 ているが、これで「自分たちが正しくて、手
 助けが必要な人は面倒を見てあげないとい
 ない足手まとい、のようだ。障害のない私だ
 っで、いろいろな助けの中にも暮らしているの
 に、それはおかしいのではないか。
 人は一人では生きていけない。たくさんの
 人と「支え合う」というのが当たり前だ。障
 害者だって高齢者だって社会の中で助け合っ
 て生活している。それなのに、このよう
 たちは「支えてあげると対象となる。私は誰
 もが支え合いの中に生き、公平な生活を送れ
 るようになまちにしたい。
 私が二年生のとき、クラスに右手が不自由
 な人がいた。右手の首より先が動かかないと
 う障害だ。何か作業をするときは、近くの人

が手伝ったりしていた。でもそれは一方的な助けでしかない。左手がとても強く、器用だった。

体もうまく使いこなしていた。授業では他の人とちがう考え方を発表したりして盛り上げ

ていた。体中を駆使して先生の手伝いや活動

など、自分からよく参加していた。

このように、自分、周りの人に助けられ、

自分、人の手伝いをすると、いう形で、クラス

の中で支え合いができていた。これを多くの

人ができれば、だれもが助け合いの中で生活

することができる町になつていくと思う。

このようなまちをつくるために、今私にでき

きることは、周りの人の人それぞれ、良さを見つけ、

お互いに助け合うという感覚を持つて、

平等に接することだ。

あなたも、一度「支えあい」ということに

ついて考えてみてはどうだろうか。